

16日、清水大使はクライペダ港湾局を訪問し、ラタカス（Mr. Algis Latakas）CEOと意見交換を行った後、ゴンティエ（Ms. Kristina Gontier）マーケティングプロジェクトマネージャーの案内により、視察船「LOTAS」に乗船して港内の視察を行いました。

1 クライペダ港湾局 概要

リトアニア経済を支える国有の不凍港・クライペダ港は、貨物、海事、グリーンエネルギーの3本柱を軸に、地政学的リスクによる貨物激減をコンテナハブへの転換で乗り越えつつ、最近では水素ステーションを完成させるなどの先進的な環境対策やセキュリティ技術の導入を通じて、国家のエネルギー安全保障や軍事モビリティをも担う重要拠点として機能しています。

2 日本との協力関係

日本との関係においては、過去に JICA（国際協力機構）がクライペダ港の発展に向けた開発調査を実施した歴史的経緯があるほか、近年でもラタカス CEO による 2024 年の横浜港視察や、2025 年の名古屋港管理組合との MOU 締結など、具体的な実務交流を通じて良好な協力関係を構築しています。

3 クライペダ港の拡張計画と日本企業のビジネス機会

現在、稼働率が 75～80%と逼迫しているコンテナターミナルの混雑を解消するため、南部水域の 100ヘクタールを埋め立てる南部港開発計画（Southern Port Development Project）が進められています。今年後半に投資家向けの国際入札が発表される予定である中、同入札ではターミナル運営のみならず港湾インフラを必要とする製造拠点の建設も対象となることから、同 CEO は日本の物流・製造企業の積極的な参画を期待しています。その他にも、混雑緩和に向けた内陸河川網の活用計画とも連動し、当地ユルバルカス地区をはじめとした労働力と資源が豊富な内陸経済特区への日本の製造業による投資も推奨しています。

4 お問い合わせ

同港湾局の詳細、下記のウェブサイトをご参照ください。

<https://portofklaipeda.lt/en/port-authority/>

本件に関し、同港湾局とのビジネス連携や入札にご関心のある日本企業の皆様は、当館経済班（economy@vn.mofa.go.jp）までお気軽にお問い合わせください。

画像 1 : ラタカス CEO と清水大使の意見交換



画像 2 : ゴンティエ氏によるクライペダ港湾案内

